

令和5年度 第3回 富塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年11月22日（水） 15時00分から16時00分まで
- 2 開催場所 富塚中学校 2階会議室
- 3 出席委員 島田 篤志、金原 圭吾、高須 博、遠藤 喜和、安間 忠雄、松澤 久仁美、
行森 瑞恵
- 4 欠席委員 井口 隆夫、加藤 宏史
- 5 オブザーバー 関 イチロー（市議会議員）
- 6 学 校 中津川 貴一（校長）、松島 雄次郎（教頭）、藤原 啓子（CS担当教職員）、
深田 貴代（教務主任）、村松 郁枝（1年主任）、西村 脩平（2年主任）、鈴
木 善久（3年主任）、岩邊 三幸（CSディレクター）
- 7 教育委員会 清水 悠（浜松市教育委員会総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録制作者 CSディレクター 岩邊 三幸
- 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、会長から松澤委員を推挙する旨の発言あり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

（1）今年度のコミスク活動の確認、今後の展望について

（TS発表会を見学しての感想を含め）

○グループ討議（◎はグループ代表者）

（A）◎深田、善久、高須、松澤

（B）◎村松、金原、行森、

（C）◎西村、藤原、遠藤、安間

12 会議記録

司会の松島から、委員総数9人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）今年度のコミスク活動の確認、今後の展望について

（TS発表会を見学しての感想を含めて）

議長の指示により、TS発表会を見学しての感想を委員に求めたところ、以下の発言があった。

- ・ 研究テーマに沿って、生徒がよく掘り下げて調べていると感じた。（高須委員）
- ・ パワーポイントの使い方が上手で驚いた。テーマについて子どもの視点で調べているところが興味深い。（行森委員）
- ・ 浜松市全体のこと、又富塚という地域について、一人一人がよく掘り下げて調べていた。この知るという機会が大切であると思うので、是非次年度にも繋げて頂きたい。（金原委員）
- ・ プレゼン能力、発表する力がよくできており感心した。総合の学習や授業で、学び合いや発表を普段からしている成果であると思う。（遠藤委員）

- ・ 小学校ではただ発表をしているだけであったが、MCのようなトークで笑いあいの会話のキャッチボールができており、質疑応答にも柔軟に対応できるという事に成長を感じた。(安間委員)
- ・ パワーポイントやパソコンについては先生が指導するのか？(安間委員)
⇒小学校からパソコンは使っていたようだが、担任によっても使用頻度にばらつきがあるようで、今年度は1年の全クラスにリモートでスライドの作り方を指導した。(村松)

議長の指示により、今年度のコミスク活動と今後の展望について、学校職員と委員とのグループ別で熟議を行い、グループ代表者が以下のように発表した。

(グループA)

- ・ コロナ禍を経て、活動の範囲も広がり、子ども達の姿を人に見ていただく機会も増えてきた。
- ・ 様々な活動が地域で行われており、特に協働センターでは子ども達がボランティアに参加することで、世代を超えて地域の人々と繋がることができ、その中で学んできていることが、今日のTS発表や学校での学びにも繋がっている。
- ・ 友愛訪問では今年度は9名の生徒が参加していたが、高齢者は中学生と一緒にいることで笑顔が増えると聞いた。今後、赤ちゃんとの触れあいの場も実施予定であるが、そういった世代を超えた中で、地域と関わりを学んでいく機会を増やしていければいいと思う。

(グループB)

- ・ 色々な活動を通して、子ども達が知る機会が増えた。
- ・ 浜松の事を知る、又色々な職業について学ぶ等、こういった取り組みが子ども達の視野を広げ、未来の可能性を広げることに繋がっていくと思う。
- ・ 地域としては、富塚中の取り組みや活動を外に発信し知ってもらう機会を増やすことで、この学校に通わせたい、更にはこの地域に住みたいと思ってもらえるようになればと思う。
- ・ 色々な人の生の声を聞く機会を増やしたい。富塚地区には多種多様な人材がいらっしゃるので、そういった方々を活用して、子ども達の未来を広げたい。
- ・ 学校でも子ども達の視野を広げるような指導をしているが、今後も学校と地域が一体となって取り組んでいければと思う。

(グループC)

- ・ 体験学習において、先方との連絡を学校支援コーディネーターにして頂き、非常に助かった。
- ・ TS関連の活動だけでなく、学習指導の面でも書道や読み聞かせ等で地域の方が関わって下さっている。富塚地区には色々な人材がいらっしゃるので、他にも英語スピーチの指導や色々な教科での学習指導において、地域の人材・人脈を広げていきたい。
- ・ 学習指導の場において、第三者が入ることで、子ども達にも緊張感が出るし、更に学びを深める機会になる。
- ・ この地域で戦争体験のある方のお話を聞く機会があれば、地域について更に理解を深められるのではないと思う。
- ・ 今回TSで発表していた生徒もいたが、手話についても学ぶ機会があればと思う。

(1) のグループ発表を受けて、委員からは以下の発言があった。

- ・ 視野を広げるには情報の提供が必要であるが、インターネットで調べると中にはミスリードが起きることもあるので、生の声を聞く機会があればと思う。(金原委員)
- ・ 以前学校で行われていた、地域の先輩の声を聞く座談会のような機会が復活すればいいのではないか。(高須委員)
- ・ 色々な要望があるが、実際にこれだけのことをやれる時間を取れるのでしょうか。(安間委員)
⇒現実を考えると、今やっている活動だけで、時間的にはかなり手一杯のところはあります。その中でどれだけ組み込めるかということを考えて行かなければならない。(校長)
- ・ 全体朝礼の中で、手話の方に来て頂いて、短い時間で教えてもらえるといいのでは。(安間委員)
⇒以前と違い、全校集会においてミートを使って配信することも可能であり、移動時間を減らすことでその分余った時間を活用し様々な取組につなげていくことができないか、今後職員と相談しながら検討していきたい。(深田)
- ・ 学校では決められた教育課程があるので、その中で学校と地域が連携し、お互い協力しながら取り組んでいくことが、コミュニティ・スクールの良さでもあり、機能性を高めることにもなるのではないか。(島田委員)

その他の連絡事項等

司会から、本年度の運営協議会自己評価表の作成依頼についての説明があった。

また、次回会議は令和6年2月21日(水)午後2時30分から2階会議室で開催する旨の報告があった。